

九州工業大学の近況（2019.1～）について

- 資料 1-2
- (1) **2019 年春、和についてを想う（H30.4.27）** (p-1)
- (2) **平成 31 年度 入学式 を挙行** (p-3)
- ・ 4.4 @北九州ソレイユホール、イズカコスモスコモン
 - ・ 1655 名（学部：1034 名、大学院博士前期課程 574 名、博士前期課程 47 名）の入学者
- (3) **平成 30 年度 学位記授与式 を挙行** (p-4)
- ・ 3.25 @北九州ソレイユホール
 - ・ 1533 名（学部：929 名、大学院博士前期課程 568 名、大学院博士後期課程 36 名）の学位授与
- (4) **Team KUROSHIO、Shell Ocean Discovery XPRIZE で準優勝の快挙** (p-5)
- ・ 6.1 モナコで開催された海底の無人探査技術を競う国際コンテスト（米 X プライズ財団）による表彰式で、本学、海洋研究開発機構、東京大など 8 機関で構成する「Team KUROSHIO」の準優勝が発表。
 - ・ 6.5 海洋研究開発機構（東京）で結果報告会を開催
- (5) **クラウドファンディングによる資金調達を開始** (p-8)
- ・ 5.27 第 1 号「九工大の挑戦!学生フォーミュラ日本大会での上位入賞を目指して」
- (6) **大学院生命体工学研究科（若松キャンパス）オープンキャンパスを開催** (p-11)
- ・ 5.11@若松キャンパス
 - ・ 40 の研究室が一般公開され、170 名の来場者
- (7) **文部科学省エントランスで九工大の企画を展示中** (p-12)
- ・ テーマ：介護・見守り分野におけるセンサ行動認識システムの開発
-九州工業大学は、未来志向の AI・IoT で医療・介護の負担を減らします-
 - ・ 5.20(月)~6.21(金) ※6.4 (火) には、文部科学省情報ひろばにてイベント開催
- (8) **『RoboCup Asia-Pacific』で Hibikino-Musashi@Home が準優勝** (p-13)
- ・ 5.16~18、中国・天津市で開催された The RoboCup Asia-Pacific (RCAP) Tianjin Invitational Tournament で、学生プロジェクトチーム“Hibikino-Musashi@Home”が準優勝
- (9) **「パブるラジオ」が北九州シティ FM から表彰** (p-14)
- ・ 4 月から授業の一環で挑戦中の本学工学部総合システム工学科 3 年生（4 名）がパーソナリティを務める「パブるラジオ」が、4 月度月間視聴・聴取一位となり株式会社北九州シティ FM より表彰
- (10) **渋沢栄一の書を公開展示** (p-15)
- ・ 4.9 2024 年発行予定の新一万円札の肖像に決まった 渋沢栄一 直筆の書を戸畑キャンパスの百周年中村記念館 1 階に展示（論語の一節「訥於言敏於行」）
- (11) **「情報教育支援士養成講座」閉講式、及び称号の授与式の実施** (p-16)
- ・ 3.21@サテライト福岡天神
 - ・ 1 年間の講習を終え、今年度も新たに 17 名の「九州工業大学情報教育支援士」が誕生

- (12) **アクティブラーニング・課題研究発表会 ～PBL 合同成果発表会～** (p-17)
- ・ 3.24@戸畑キャンパス
 - ・ 大学・高専生によるプロジェクト成果の発表と福岡県内の高校生による課題研究発表、福岡県内外の高校生によるポスター発表
- (13) **博多大丸でコラボイベントを開催** (p-18)
- ・ 3.6-3.17@大丸（福岡天神店）
 - ・ 九工大教員によるサイエンスカフェやこどもプログラミング教室、学生プロジェクトチームによるロボットデモ、最先端研究のパネル展示などを実施。
- (14) **学内合同企業説明会を開催** (p-19)
- ・ 3.6-3.7@戸畑キャンパス、飯塚キャンパス
 - ・ 698 社（のべ 892 社）の参加
（九州：209 社〔福岡県：168 社（うち北九州：39 社）〕、関東：293 社、関西：92 社など）
- (15) **学生プロジェクト成果発表会を開催** (p-20)
- ・ 3.1@戸畑キャンパス
 - ・ 20 団体が来賓の明専会、安川電機、千鳥屋本家の方々等の前で発表、意見交換を実施
- (16) **平成 30 年度産学連携教育審議会を開催** (p-21)
- ・ 2.26@戸畑キャンパス
 - ・ 民間企業の人事部門の要職の方などにお越しいただき、本学が取り組む教育改革等に対して、産業界からの意見を採り入れることを目的に開催
- (17) **「BIRDS3 Satellite Project」衛星完成披露記者会見を開催** (p-22)
- ・ 2.15@戸畑キャンパス
 - ・ 本学、ネパール、スリランカと共同で開発。ネパール、スリランカは国として初の衛星。
 - ・ 2019.4 にアメリカから打ち上げられ、2019.6 頃宇宙空間に放出予定（戸畑キャンパスでパブリックビューイングを予定）
- (18) **九州工業大学が小型衛星分野で 2018 年に続き世界 1 位** (p-23)
- ・ 宇宙産業に関する調査で世界的に知られる「Bryce Space and Technology」（米国）によるレポート「Smallsats by the Numbers 2019」で、運用する小型・超小型衛星の数において、本学は大学・学術機関の中で世界 1 位。2018 年に続いての 1 位。
- (19) **本学の 2019 年度入試（2019 年 4 月入学生）の状況**
- ・ 志願者倍率 ⇒ 前期、後期共に上昇傾向
【前】工 2.53 倍→2.64 倍↑ 情工 2.51 倍→3.01 倍↑ 【後】工 5.01 倍→5.02 倍↑ 情工 5.94 倍→6.82 倍↑
 - ・ 合格者偏差値 ⇒ 前期・後期ともに年々上昇傾向
【前】工 53.6→54.1↑ 情工 52.5→53.0↑ 【後】工 57.8→59.0↑ 情工 58.5→59.2↑
 - ・ AO 入試の初実施 ⇒ AO 入試では、学部入試としては初めて学外（大阪）で実施。関西地区以东の志願者割合が 18.1%となり、全入試区分の 10.8%よりも高い志願者割合となった。

2019年4月11日

2019年春、和について思う

九州工業大学学長 尾家祐二

この四月、学部、大学院に1,655名の新入生を迎えることができました。大変嬉しいことです。女子学生は年々増加し、学部では3年次編入学生を含み、16%を超える170名が入学しました。また、留学生は13カ国から71名が入学し、お祝いと歓迎の気持ちとして、入学式会場には各国の国旗を描いたパネルも準備しました。(末尾に掲載しています)

さて、みなさまご承知の通り新しい元号は、「令和」と定まり、政府はその英訳を「Beautiful Harmony (美しい調和)」と発表しました。急速に多様性が増すこの社会において、その多様性を調和を以て活かすことこそが文化的にも経済的にも社会を豊かにすることにつながると考えます。そのような文脈において、調和、和について考えてみたいと思います。「和」と言えば、聖徳太子によるとされている「十七条憲法」の第一条はあまりにも有名です。それは「一に曰く、和をもって貴しと為し、忤(さから)うことなきを宗とせよ」という文章から始まります。「聖徳太子 法華義疎(抄)、十七条憲法」(中央公論新社刊)では分かりやすく現代語に訳されています。第一条は「人びとが上も下も和らぎ睦まじく話し合いができるならば、ことがらはおのずから道理にかなひ、何ごとも成し遂げられないことはない」という文章で締めくくられています。さらに、最後の第十七条は「十七に曰く、それ事はひとり断(さだ)むべからず。かならず衆とともに論(あげつら)うべし」で始まっています。つまり、「重大なことがらは一人で決定してはならない。かならず多くの人々とともに議論すべきで」あり、「多くの人々とともに論じ、是非を弁(わきま)えてゆくならば、そのことがらが道理にかなうようになるのである」と言っています。良い決定を下すためには、主体的で自律した人々による議論が必要であると理解できます。

和を実現するためには、相手の意見や文化を受け入れ、尊重することが大切になりますが、時には、容易なことではありません。個人のレベルでもそうですが、組織間さらには国家間となるとますます困難となります。江戸時代末期、当時のロシアとの外交交渉を担当していた幕府の官僚川路聖謨を主人公とする小説「落日の宴 勘定奉行川路聖謨」(吉村昭著)では、主人公は次のように語っています。「人と議論におよんで、相手の意見に反論するときは、つとめておだやかな言葉を使い、決して憎しみをいだいてはならない。相手が道理に反したことを口にしても、それが職務をそこなうものでないものなら、少しも心にとどめてはならない。このような心掛けでなければ、枝葉末節のことにこだわるようになり、役職を

おろそかにするようになる」、と。また、小説「菜の花の沖」(司馬遼太郎著、文春文庫)では、江戸時代、図らずも日本において捕虜になった当時のロシアのゴローニン少佐の釈放のために、自らロシアに捕らわれ、両国間の交渉に尽力する商人、高田屋嘉兵衛について描かれています。その交渉が難航する中においてロシアの担当者であるリコルドに対し、「すべて日本国の国法による御処置だ。どの国にも法はある。法は、ときに人間の気持ちを逆撫でするものだが、大きな交渉を前にして、そういうことに感情的になるのはまずい」と諭しています。いずれも、異なる立場、個性を受け入れ、尊重して、共存する方法を見出そうとしています。現代の私たちにとっても大変大切な姿勢を示していると思います。

新たな年度が始まる季節は、新しいことを始める良い機会にもなります。隣の国、韓国には「はじまりが半分だ」という言葉があるそうです。これは詩人の茨木のり子さんの本「ハングルへの旅」(朝日新聞出版)で知りました。その中で、「始めようと意志した時は、既に半分がたは達成したようなものだ。こういう大らかさは、気持ちをずいぶん楽にしてくれる。ノイローゼにならないだろう。九割がたできて完成したと思うなと言う完璧主義とはだいぶ違う」、と述べています。大らかな気持ちで新しいことに挑戦したいものです。

本学は、今年創立 110 周年を迎えます。学内外の多様な知恵を集め、未来社会で活躍し続ける人材の育成と新たな知の創造のために、今年度も様々な試みを行って参ります。ご理解並びにご協力よろしくお願い申し上げます。



ENTRANCE CEREMONY SPRING 2019



入学式を行いました

更新日:2019.04.05

平成31年度入学式を、2019年4月4日(木)10時からイイツカコスモスコモン(飯塚市)、14時から北九州ソレイユホール(北九州市)において挙行しました。

戸畑・飯塚・若松の3キャンパスに迎えた学部・大学院合わせて1,655名の新入生が、九工大生として新たな一歩を踏み出しました。

尾家祐二学長からの告辞では、本学の成り立ちや歴史、本学の持つ様々な教育プログラムなどについて述べられ、「専門的な知識やスキルの修得と共に、それらを活かす能力を身につけ、学び続けることの大切さも理解してほしい」と新入生への激励の言葉が贈られました。

また、両会場において、「鳳龍奨学賞」(学業成績優秀者)、課外活動等に功績のあった団体等に対する学生表彰および技術賞・語学賞の表彰があわせて行われました。

【平成31年度入学者数】

○学部(1034名)

- ・工学部 566名
- ・情報工学部 468名

○大学院博士前期課程(574名)

- ・工学府 276名
- ・情報工学府 190名
- ・生命体工学研究科 108名

○大学院博士後期課程(47名)

- ・工学府 17名
- ・情報工学府 12名
- ・生命体工学研究科 18名



尾家学長による入学許可

学位記授与式を行いました

更新日:2019.03.26

2019年3月25日(月)、北九州ソレイユホールにおいて、平成30年度 学位記授与式を挙行し、学部・大学院(博士前期・後期課程)あわせて1,533名が新たな旅立ちを迎えました。

大学関係者と多くの保護者の皆様が見守る厳粛な雰囲気の中、各学科・専攻の代表者が学位記を授与され、尾家学長は告辞において、「ダイナミックに変化し続ける未来において、九工大で培った技術、スキルそして学び続ける能力を最大限活かしてほしい」と卒業生・修了生を激励しました。

卒業・修了した学生が、本学で学んだことを活かし、いつまでも健康で、社会に大いに貢献してくれますことを、職員一同、祈念しております。

【学位記授与者】

○学部

- ・工学部 500名
- ・情報工学部 429名

○大学院博士前期課程

- ・工学府 265名
- ・情報工学府 184名
- ・生命体工学研究科 119名

○大学院博士後期課程

- ・工学府 12名
- ・情報工学府 6名
- ・生命体工学研究科 18名



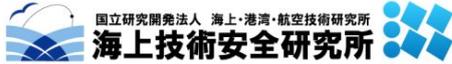
尾家学長による告辞



学位記授与の様子



高原明専会会長による来賓祝辞



2019年6月3日
国立研究開発法人海洋研究開発機構
国立大学法人東京大学生産技術研究所
国立大学法人九州工業大学
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所
三井 E&S 造船株式会社
日本海洋事業株式会社
株式会社 KDDI 総合研究所
ヤマハ発動機株式会社

**日本発の海底探査チーム「Team KUROSHIO」
Shell Ocean Discovery XPRIZE 「Round2 実海域競技」(決勝)
結果報告**

国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立大学法人東京大学生産技術研究所、国立大学法人九州工業大学、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所、三井 E&S 造船株式会社、日本海洋事業株式会社、株式会社 KDDI 総合研究所及びヤマハ発動機株式会社からなる「Team KUROSHIO」は、海中ロボット等を用いて、超広域高速海底マッピングの実現を目標とする海底探査技術の国際コンペティション「Shell Ocean Discovery XPRIZE」(別紙 1)において、以下の結果を収めましたので、ご報告いたします。

1. 結果：

2 位 (32 チーム中)

2. XPRIZE 財団からの講評：

Jyotika Virmani, PhD. Executive Director, Shell Ocean Discovery XPRIZE

このコンペティションを契機として Team KUROSHIO が開発した技術は、深海探査における可能性、将来の姿を私たちに垣間見せてくれたと思っています。仕様が異なる複数のロボットを連携運用する技術の独自性、条件や状況の変化に対応する柔軟性やカバー領域の広さは素晴らしいものでした。

Team KUROSHIO と 3 年間に共にしたコンペティション運営スタッフの誰もが、チームの技術レベルの高さに限らず、チームがもつ「文化」からも多くを知り、学んだことを嬉しく思っています。また、コンペティションの成功に貢献してくれたことにもとても感謝しています。

3. チームリーダー（中谷武志）コメント：

この度、Team KUROSHIO は海底探査の国際コンペティション「Shell Ocean Discovery XPRIZE」において準優勝の成績を残すことができました。

優勝には一步届きませんでしたが、欧米の強豪チームがひしめく中において準優勝を勝ち得たことを嬉しく思います。最後まで挑戦を続けてこられたのは、スポンサー、サプライヤー、そして多くのサポーター皆様の支えがあったからです。この場を借りて心より感謝申し上げます。

我々は本コンペティションへの挑戦を通して、「One Click Ocean」という海洋探査の将来ビジョンを示し、世界に先駆けて革新的な技術開発を進めて参りました。その道のりはまさに困難の連続でしたが、チームを構成する8機関の技術力・オペレーション力と、チームメンバーのアツイ想いを結集し、技術提案書審査、技術評価試験（予選）、そしてギリシャで行われた実海域競技（決勝）と着実に結果を残すことが出来ました。

素晴らしいチームメンバーとともに世界に挑戦し、我が国の海洋ロボット技術の高さを結果で示せたことを誇りに感じます。今後も、本コンペティションを通じて培った技術力・オペレーション力、そしてネットワークをさらに発展させ、日本発の海洋探査技術「One Click Ocean」の実用化に向けて、更なる研鑽を続けてまいります。

4. 結果発表セレモニーの様子



（写真 1：トロフィー授与）

（写真 2：XPRIZE 財団及び Team KUROSHIO メンバー集合写真）

5. お問い合わせ先

Team KUROSHIO 広報担当 杉山・安蒜

E-mail: kuroshiopr@jamstec.go.jp 電話: 046-867-9250

1. XPRIZE について

1995 年に設立された米国の非営利組織である「XPRIZE 財団」によって運営され、世界の大きな課題を解決することを目的とした世界コンペティション。「学習」「探査」「エネルギーと環境」「世界規模の開発」「生命科学」の 5 分野をテーマとする。最近では、民間による最初の月面無人探査を競う「Google Lunar XPRIZE」が話題となった。

2. Shell Ocean Discovery XPRIZE について

○目標

・500km²の海底マッピング（解像度：水平 5m、垂直 50cm 以上）の実現

○主なルール

- ・支援母船を用いない等、海域に人が立ち入らない（海域へのロボットの展開・回収含む）
- ・機材の持込みは 40feet コンテナ（外寸 L×W×H=12.19×2.43×2.59（m））1 つまで
- ・調査後 48 時間以内での海底地形図の作成及び提出

○賞金総額

・700 万ドル（約 8 億円）（内訳：1 位 400 万ドル、2 位 100 万ドル、中間賞 100 万ドルは Round1 通過 9 チームに分配、NOAA ボーナス賞 100 万ドル（米国チームのみ））

○コンペティション内容・スケジュール

Shell Ocean Discovery XPRIZE では下記の 2 ラウンドを実施。

①Round1 技術評価試験（2018 年 1 月実施）

・高速かつ広域での海底探査に必要な 11 項目の技術に関する評価試験

②Round2 実海域競技（2018 年 11-12 月実施・ギリシャ共和国カラマタ沖）

- ・水深 4,000m で 24 時間以内に最低 250km²以上の海底マップ構築
- ・海底ターゲットの写真撮影（10 枚）

③結果発表セレモニー

- ・日時：2019 年 6 月 1 日（土）午前 2 時～3 時 30 分（日本時間）
- ・場所：モナコ公国・モナコ海洋博物館



学生フォーミュラチームKIT-formulaによるクラウドファンディング実施中

更新日:2019.05.27

本学の学生プロジェクトの1つである「学生フォーミュラチーム KIT-formula」が、READYFOR株式会社のクラウドファンディングサービスを利用して、フォーミュラ用軽量ホイール購入資金への支援を募集しています。

本学は、寄附金獲得による研究の活性化や学生の部活動の支援を目的として、クラウドファンディング運営会社との業務提携を開始し、今回が初の試みとなります。

当プロジェクトを応援していただける方々からの温かいご支援をお待ちしております。

プロジェクト概要

『九工大の挑戦!学生フォーミュラ日本大会での上位入賞を目指して』

- 実 行 者: 上原隆輝(KIT-formula2019年度代表)
- 目標金額: 50万円
- 募集期間: 2019年5月27日(月)~2019年6月28日(金)
- 概 要: 九州工業大学学生フォーミュラ(KIT-formula)は「九州という地方から全国に通用する車両をつくる!」という想いを胸に活動しています。クラウドファンディングを通じて軽量ホイールを購入し、今年度チーム史上3度目となる総合順位9位以内を目指します。

- ① クラウドファンディングの願いは[こちら](#)。(学生フォーミュラチーム「KIT-formula」より)
- ① プロジェクトの詳細・ご支援のお申込みは[こちら](#)。(外部リンク:Readyfor HP)
- ① 学生プロジェクトの紹介は[こちら](#)。(明専会学生プロジェクト)



2018大会の様子



作業風景

KIT九州工業大学 KIT-FORMULA

クラウドファンディングのお願い

皆さんこんにちは、九州工業大学学生フォーミュラ「KIT-formula」2019年度代表の上原隆輝と申します。

私たちは毎年夏に静岡県で開催される「学生フォーミュラ日本大会」に参加するため、日々活動しています。



大会で上位入賞を果たすために ～残された課題～

私たちは2018年度大会においてチーム史上最速のタイムを記録しました。しかし、トップチームとは5.9秒もの差があり、目標とする総合順位9位以上を達成するにはさらなる車両性能の向上が必要であることがわかりました。そこで徹底した軽量化を行うためホイールの10inch化を行うことにしました。

皆さんのお力で九州の地から 上位入賞へ

学生フォーミュラでは車両製作費や車両運搬費などで膨大なコストがかかるため、このままでは10inchホイールを購入することができません。

そこで、皆さんのお力をお借りしてホイールを購入し「九州の地から全国に通用するものづくり」を達成したいと考えています。

以下のQRコードかリンクからご支援していただくことができます。ぜひご支援をよろしくお願いいたします！



or <https://readyfor.jp/projects/kit-formula2019>

目標金額 **500,000円**

リターンについて・・

寄付していただいた金額に応じましてささやかではございますが、クリアファイルやトートバッグなどのチームオリジナルグッズや、チームホームページ・車体へのお名前の記載などを予定しております。



※ グッズで使用しているキャラクターは機動戦士ガンダムやタイムボカンシリーズでメカデザイン担当をしていた大河原邦男様にデザインして頂きました。

税制上の優遇措置について・・

九州工業大学へのご寄附については確定申告を行うことにより、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくはおもて面QRコードまたはリンク先のページからご確認ください。

ご支援のほどよろしく申し上げます!!

学生フォーミュラとは・・

「学生フォーミュラ」とは、フォーミュラカーの設計・製作を通してものづくりの本質やプロセスを学ぶことができる活動です。大会では車両の速さだけではなく、車両のコンセプトやコスト、フォーミュラカー販売を想定したビジネスモデルなどのものづくりの総合力が評価されます。

次世代のエンジニアの育成の場として、世界各国で同様の大会が開催されています。



2018年度KIT-formula車両

大学院生命体工学研究科 オープンキャンパス 2019を開催しました

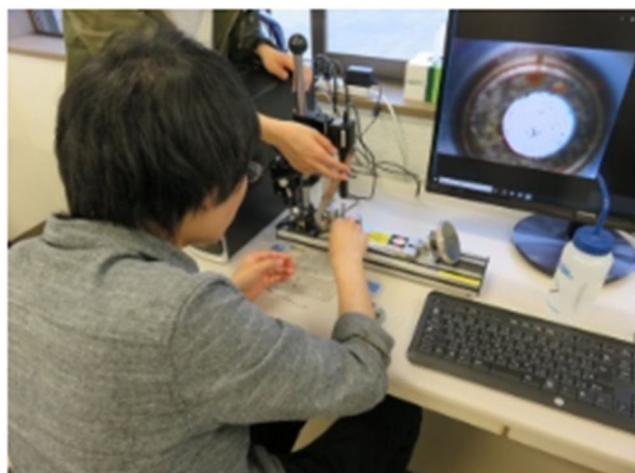
更新日:2019.05.20

2019年5月11日(土)、大学院生命体工学研究科(若松キャンパス)において、オープンキャンパスを開催し、今年度は40の研究室を一般公開し、170名の来場がありました。

1階ロビーに研究室展示ブースを設け、研究内容について本学学生が説明を行い、興味を持った研究室を訪問するという形式で行いました。来場者からはどの研究内容も興味深く、説明も分かりやすかったと好評でした。また、当日は、入試説明コーナーも設置され、受験希望の学生からの質問を受付けました。



ロビーの様子



研究室の様子



研究室展示ブース1



研究室展示ブース2

文科省エントランスで九工大展示を行っています

更新日:2019.05.20

現在、文部科学省(東京都千代田区)の2階エントランスにおいて、企画展示を行っています。
お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りの上、ご覧ください。

また、6月4日(火)、文部科学省情報ひろばにおいて、当該展示に関連するイベントも開催予定です。(詳細は
トップページ「EVENT」でお知らせします。)こちらも是非ご参加ください。

【展示期間】2019年5月20日(月)~2019年6月21日(金)まで

【開館時間】10:00~18:00 (入館時間は17:30まで。土・日・祝は休館。入場無料)

【展示会場】文部科学省新庁舎(東館)2階 エントランス (東京都千代田区霞が関3-2-2)

【主な展示物】

○展示パネル

- ・ Q and A形式で、介護問題に九工大が取り組む最新テクノロジー(AIやIoT)を活用することで
どのような効果があるのかをわかりやすく紹介

○映像

- ・ センサ行動認識技術の紹介
- ・ AIを用いた行動みまもり技術の紹介

※九州工業大学 大学院生命体工学研究科 井上創造 准教授



展示の様子(メイン)



展示の様子(裏面)

『RoboCup Asia-Pacific Tianjin Invitational Tournament』で Hibikino-Musashi@Home が準優勝!

更新日:2019.05.20

2019年5月16日～18日、中国・天津市で開催されたThe RoboCup Asia-Pacific (RCAP) Tianjin Invitational Tournament @Home Open Platform League に、生命体工学研究科の学生が中心となって結成している“Hibikino-Musashi@Home”チームが参加し、準優勝という成績を収めました。

本大会は、アジア・パシフィック地域を中心とした世界の有力チームを招待して行われる競技会で、Hibikino-Musashi@Homeチームは招待枠での参加となりました。招待参加の決定が直前であり、十分な準備ができず、最低限のロボットハードウェアでの参加となりましたが、これまでのチームのソフトウェアやノウハウの集積を生かすことができ、準優勝という好成績を収めることが出来ました。

@ホームリーグは、家庭やオフィスといった、人間の生活空間で人間と協力して働くサービスロボットの性能を評価するリーグです。ロボットには、人間と自然な意思疎通を行い、周辺の環境を認識し、自ら行動を計画し実行するための、高い人工知能の能力が求められます。@ホームリーグはRoboCupの中では最も巨大なリーグであり、かつ、企業からの注目度も極めて高く、トヨタやソフトバンクのロボットも標準機として採用されています。

Hibikino-Musashi@Homeは、RoboCup 2017、2018 世界大会優勝、RoboCup Japan Open 2018優勝、World Robot Summit 2018 優勝と、近年好成績を収めており、2019年6月にオーストラリア・シドニーで開催予定のRoboCup 2019 世界大会へも厳しい事前審査を通過して参加が内定しており、今後ますますの活躍が注目されます。

なお、Hibikino-Musashi@Homeは、九州工業大学・明専会学生創造学習支援プロジェクト「安川電機プロジェクト」や、連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース(カーロボ連携大学院)より支援を受けています。本学と明専会では、学生グループによる創造的なプロジェクトに対し、その活動を強力に支援しています。



準備中1



準備中2



表彰式の様子

「パブるラジオ」が(株)北九州シティFMより4月度視聴・聴取一位で表彰されました

更新日:2019.05.14

2019年4月から、本学工学部総合システム工学科3年生がパーソナリティを務める「パブるラジオ」が、4月度月間視聴・聴取一位となり株式会社北九州シティFMより表彰されました。

毎週土曜日午後2時から1時間の生放送ですが、総合システム工学PBLのプロジェクト活動の一環として、学生自ら企画・構成、パーソナリティまでをこなしています。番組がスタートした月に1位を獲得し、今後の活動にもはずみがつく表彰となりました。



表彰状

【パブるラジオ: FM KITAQ(78.5MH)】

2019年4月～2020年3月 毎週土曜日14:00～14:55 (YouTubeでもライブ配信)

※過去の放送はYouTubeからもご視聴いただけます。(YouTubeで「パブるラジオ」で検索)

パブるラジオ、放送中!

更新日:2019.04.18

工学部総合システム工学科3年生の必修科目「総合システムPBL」(担当:中尾基 教授)の授業の一環として、同学科の学生4名が1年間ラジオパーソナリティに挑戦します。

毎週、土曜日の午後2時から1時間、1年間にわたり、さまざまなテーマでお送りする予定です。

是非、ご視聴ください。

期間: 2019年4月～2020年3月

日時: 毎週 土曜日 14:00～14:55

FM局: FM KITAQ(78.5MHz)

※番組表は[こちら](#)。(外部リンク:FMKITAQラジオ番組案内)

※過去の放送はYOUTUBEからもご視聴いただけます。(YOUTUBEで「パブるラジオ」で検索)



パブるラジオパーソナリティの4名



中尾教授とメンバーにて打ち合わせ1



中尾教授とメンバーにて打ち合わせ2

| 渋沢栄一の書を展示しています

更新日:2019.04.12

2024年発行予定の新一万円札の肖像に決まった 渋沢栄一 直筆の書を戸畑キャンパスの百周年中村記念館1階に展示しています。

渋沢栄一は、本学(当時の明治専門学校)設立の立役者、安川敬一郎と強い繋がりがあったこともあり、大正3年6月5日、本学を訪れ、演説を行ったと記録に残っています。本学が所有する「芳名録」においても、同日の日付での渋沢栄一の署名も残っており、この書もこの訪問がきっかけで本学に贈られたものと推察されます。

この書は、論語の一節から引用した「訥於言敏於行」と書かれており、渋沢栄一が込めた思いは、現代の学生にも通じるものです。

是非、ご覧ください。

◇原文(孔子の論語 里仁第四)

子曰、君子欲訥於言、而敏於行。

◇書き下し文

子曰く、君子は言(げん)に訥(とつ)にして、行(こう)に敏(びん)ならんことを欲す。

◇解釈

徳がある人は、多くのこと語るよりも、まずは行動を敏速にすべき。



渋沢栄一 直筆の書「訥於言敏於行」1

「情報教育支援士養成講座」閉講式及び称号の授与式を行いました

更新日:2019.04.04

2019年3月21日(木・祝)、本学サテライト福岡天神において、「情報教育支援士養成講座」の閉講式及び「九州工業大学情報教育支援士」の授与式を行いました。

1年間の講習を終え、今年度も新たに17名の「九州工業大学情報教育支援士」が誕生しました。今後、各地域の情報教育支援活動で活躍されることをお祈りしております。

なお、現在、2019年度の「九州工業大学情報教育支援士養成講座」の募集を行っております。詳しくは、[こちら](#)をご確認ください。(情報教育支援士養成講座HP)



授与式の様子



集合写真

アクティブラーニング・課題研究発表会 ～PBL合同成果発表会～

更新日:2019.04.04

2019年3月24日(日)、本学戸畑キャンパス記念講堂および百周年中村記念館において、「平成30年度アクティブラーニング・課題研究発表会～第9回PBL合同成果発表会～」を開催しました。

記念講堂では大学・高専生によるプロジェクト成果の発表と福岡県内の高校生による課題研究発表を、百周年中村記念館では福岡県内外の高校生によるポスター発表が行われました。各チームとも工夫をこらしたプレゼンテーションが行われ、専門性の高い工学・科学の研究発表から、地域・防災に関係する暮らしに密接に関わる研究開発など、幅広いテーマの取り組みが披露され、企業、教育関係の審査員の皆様にも高い評価をいただきました。

また、ポスター発表会には高校生・教員含め222名の参加があり、こちらも活発な質疑応答が行われました。

【口頭発表審査結果】

○大学・高専の部

・グランプリ

「Hello Idea」九州工業大学工学部

・準グランプリ

「国や文化の壁を越えたグローバルなスポーツ"COROMO"の提案」北九州工業高等専門学校

○高校の部

・優勝

「平尾台 広谷湿原 土壌硬度と水の起源を探る+ラムサール条約」東筑紫学園高等学校

・準優勝

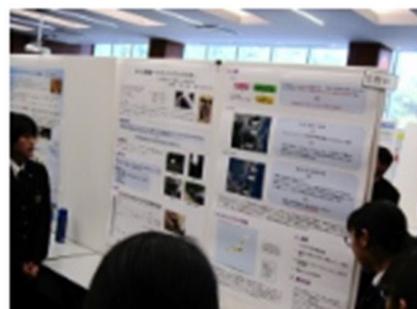
「ユーグレナと二枚貝による廃しょうゆの処理について」福岡工業大学附属城東高等学校



安永副学長による開会挨拶



口頭発表の様子



ポスター発表



口頭発表 会場の様子



表彰式の様子



表彰_ポスター発表

大丸でコラボイベントを開催しました（2週目）

更新日:2019.03.18

2019年3月6日(水)～3月17日(日)、大丸(福岡天神店)において、～未来を感じるデジタルライフ～と題した本学と大丸のコラボイベントを開催しました。

大丸福岡天神店パサージュ広場において、本学の最新の研究(イノベーション推進機構 佐藤寧 教授)のパネル展示、最先端3Dプリンタの作品展示のほか、週末には本学の教員によるミニ講義(サイエンスカフェ)や、こどもプログラミング教室、学生プロジェクトチームによるロボットのデモンストレーションなど、様々な催しを行いました。

3月16日(土)のサイエンスカフェでは、2講義が開催され、とても多くの方が買い物の途中に足を止めるなど聴講頂き、コーヒーを飲みながらフランクな形式でのミニ講義を楽しんで頂きました。

また、学生プロジェクトチーム「Hibikino-Musashi」のメンバーによるサッカーロボットのデモンストレーションが行われ、こどもたちとのPK対決は、多くの拍手や歓声が寄せられました。

3月17日(日)には、大学院工学研究院 基礎科学研究系 中尾基 教授による小学生5-6年生向けの「こどもプログラミング教室(ブロックロボカーも使ったプログラミング)」を開催しました。事前に申込み頂いた8名の参加者がスクラッチというやさしい言語をプログラミングに挑戦しました。



中村准教授によるサイエンスカフェ



西田准教授によるサイエンスカフェ



Hibikino-Musashiによるサッカーロボットのデモ



中尾教授によるこどもプログラミング教室

学内合同企業説明会(第5回就職セミナー)を開催しました

更新日:2019.03.11

2019年3月6日(水)、7日(木)の2日間において、2020年3月卒業・修了予定者(現学部3年生及び大学院博士前期課程1年生)を対象とした学内合同企業説明会(第5回就職セミナー)を、戸畑及び飯塚キャンパスにおいて開催しました。

今年度も698社(のべ892社)と、非常に多くの企業や官公庁の方々にご参加をいただきました。雨の中、スーツに身を包んだ学生は、関心を持つ企業のブースを訪問するために学内を回り、企業のご担当の方々の事業概要等の説明を熱心に聞きながら、必死にメモを取る姿が見受けられました。



会場の様子(戸畑キャンパス)1



会場の様子(戸畑キャンパス)2



会場の様子(戸畑キャンパス)3



会場の様子(戸畑キャンパス)4

学生プロジェクト成果発表会を開催しました!

更新日:2019.03.06

2019年3月1日(金)、戸畑キャンパス百周年中村記念館において、平成30年度学生プロジェクト成果発表会を実施しました。

来賓として、ご支援をいただいております、

- ・一般社団法人 明専会 永松正博 常務理事
- ・株式会社 安川電機 技術開発本部 知的財産担当 石橋一郎 技師長
- ・株式会社 千鳥屋本家 原田実樹 代表取締役社長

からご挨拶いただき、学生グループ20団体が一年間ひたむきに取り組んだ成果の発表を行い、その評価を行いました。

デモ機による実演においては、ご来場いただきました学外の機関を含む多くの皆さまと学生との間で、その成果について、活発な意見交換がなされました。

参加した学生団体は、今年度の経験といただいた様々な意見を活かし、来年度に向け、知識やスキルをさらに深化させていきたいと、抱負を語っていました。



発表の様子1



発表の様子2



質疑応答の様子



ブース見学の様子1

平成30年度産学連携教育審議会を開催しました

更新日:2019.03.05

2019年2月26日(火)、本学戸畑キャンパス百周年中村記念館において、産学連携教育審議会を開催しました。

この会議は、民間企業の人事部門の要職の方や企業執行部を経験された方、また企業経営者の方にお越しいただき、本学が取り組む教育改革等に対して、産業界からの意見を採り入れることを目的に開催しています。

今回は、地域等が抱える課題に対して解決策に取り組む工学府の「ストックデザイン&マネジメントコース」や共同研究講座における産学連携教育等をご紹介しご意見をいただきました。外部委員の方々からは、「イノベーションが起こせる人材を育成するには、人から教えてもらうのではなく、自発的な取り組みを促す仕組みが必要」「大学が中心となり産官学連携による課題解決型教育・研究を実施すべき」など、大変貴重なご意見をいただき、本学の教育改善に繋がる有意義な議論の場となりました。

また、この他にも本学が中心となり、教育の可視化や質保証、学生の成長に関する意見交換や相互連携を推進することを目的に、高等教育機関と産業界から会員を募りコンソーシアムを立ち上げることを説明しました。



会場の様子1



会場の様子2

「BIRDS3 Satellite Project」衛星完成披露記者会見を行いました

更新日:2019.02.22

2019年2月15日(金)、戸畑キャンパスにおいて、本学、ネパール科学技術アカデミー(ネパール)、アーサー・C・クラーク近代技術研究所(スリランカ)が、共同で開発しているBIRDS3の衛星フライトモデルが完成を向かえ、報道関係者の方々を対象に、完成披露会を開催しました。

TV局、新聞社の報道関係者に対して、BIRDS3衛星3機の完成報告と衛星ミッションについての説明を行うとともに、実際に完成した衛星3機の公開を行いました。さらに尾家学長から、ネパール科学技術アカデミー長官のシュレスタ氏に衛星模型の贈呈が行われました。また、この様子は、翌日のネパール最大の新聞「National Daily in Nepal」の一面に大きく取り上げられました。

その後、3機の衛星は2月18日(月)に筑波宇宙センターにてJAXAに引き渡されました。

今後は、アメリカからロケットで国際宇宙ステーション(ISS)に運ばれたのちに、2019年度中に日本の実験模「きぼう」より放出される予定です。



記者会見風景



衛星模型の贈呈



衛星フライトモデル



集合写真

九州工業大学が小型衛星分野で2018年に続き世界1位!

更新日:2019.02.20

宇宙産業に関する調査で世界的に知られる「Bryce Space and Technology」(米国バージニア州)が発行したレポート「Smallsats by the Numbers 2019」によると、運用する小型・超小型衛星の数において、本学は大学・学術機関の中で世界1位となりました。これは2018年に続いての1位となります。

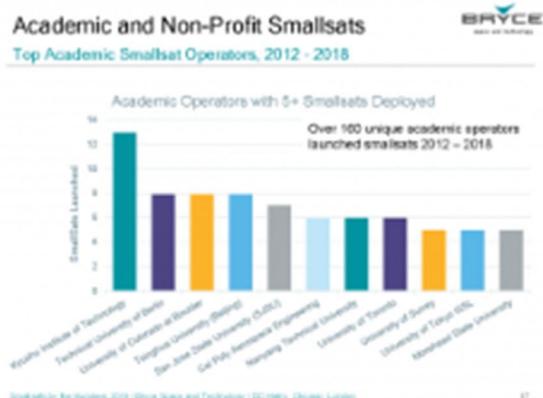
2012-2018年の間に打ち上げ・運用された600kg以下の衛星のうち、本学は13基で世界1位、2位にはベルリン工科大学(ドイツ)、コロラド大学ボルダー校(米国)、清華大学(中国)が8基、サンノゼ州立大学(米国)が7基、トロント大学(カナダ)、南洋理工科大学(シンガポール)、カルポリ エアロスペースなどが6基で並んでいます。

なお、2019年には本学からすでに1基の衛星が軌道に送り込まれ、2019年中に更に3基が軌道に投入される予定です。

◇レポート:Smallsats by the Numbers 2019 [はこちら](#) (Bryce ウェブサイトへ)



Smallsats by the Numbers 2019



大学・学術機関が運用する衛星数